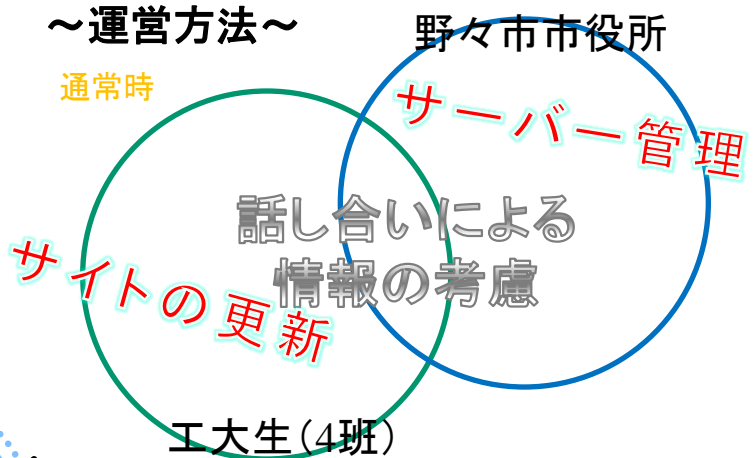


地域SNS実現へ

～動機～

近年の東日本大震災による安否確認が、携帯会社等の災害伝言サービスより大手のSNSによる確認が多く、災害時にも活用できると思い、野々市市独自のSNSを作ろうと考えたから。

～運営方法～



災害時

工大生⇒SNSに地区情報を送る
→街角リポーター
市役所⇒情報確認し、公助に役立てる



SNSの項目(通常時)

防災情報

市内でデータのサンプリング
市民の書き込み

防災意識
詳細情報の獲得

コミュニティ

野々市について
専門家との意見交換
質問コーナー

野々市市の活性化
防災知識の獲得

市内状況

野々市イベント
工大プロジェクト
周辺環境

野々市市の活性化
事前の災害対策が可能

～SNSの利用によって～

- 災害 **前** ⇒ 防災対策 可
- 後** ⇒ 状況確認
→ 素早い対応
- 継** ⇒ 物資の状況etc...
→ 不快感軽減

追加項目(災害時)

安否確認

名前・性別
生年月日
避難所

市役所に随時更新
住民票と対比させ、
早期に対応を可能

被害状況

場所・状況

共助・公助

～パソコンの利用率の低い人対策～

公民館の利用

- 館内に掲示板を設置
- 地区ごとに必要な情報を記入

～効果～

- ・市内の安否確認や災害状況の早期把握
- ・災害への対策&意識の向上



**自助・共助・
公助の推進
を図る**

金沢工業大学	
200△年度 プロジェクトデザインⅡ	
プロジェクトテーマ	:災害時の地域SNSの活用
クラス番号	:VA302
チーム番号	:4
チーム名	:ABC
チームメンバー名	:細野 本田 松野 三木 向井
担当教員名	:後藤 正美